

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	3272000112		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホームひなたぼっこ美都		
所在地	島根県益田市美都イ2-3町山本 (電話) 08562-52-7081		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成20年9月8日

【情報提供票より】 (平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月6日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	4人, 非常勤 4人, 常勤換算5.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	380円	おやつ	0円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.2歳	最低	78歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林医院、大谷医院、松ヶ丘医院、中島歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

人生の最後の場の出会いを大切に、利用者1人ひとりが笑顔で生き生きと心地よく過ごせるよう、職員は自然に接し、細やかな気づきの目と心を持って日々取り組んでいる。毎月の「ひなたぼっこ」便りの回覧や「ひなたぼっこ祭」では地域に呼びかけてバザーを行い売上げを地震の義援金として送る等、地域に溶け込んでいる。職員の力量を上げるための取り組みも意欲的で毎月サービス改善シートを使い日々振り返りながら、具体的な改善課題を持って取り組まれている。10月より1ユニット増える準備も進み、職員は意欲的に頑張っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ①理念について②市町村の連携③介護計画の見直し④栄養摂取や水分確保⑤思いや意向の把握など、全員で検討を重ねて改善された。同業者との交流、鍵をかけないケア、備蓄については引き続きの課題である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ①水曜日のカンファレンス会議や職員会議で項目ごと検討をした。職員は1ヶ月に1回自己評価を行い確認しあいながら支援し、さらなるサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 自己評価、外部評価、家族のアンケートの結果、利用者の日々の状況を知っていただき、さまざまな行事予定も議題に挙げてご意見をいただいている。協力いただける事、参加できる事など検討され地域との連携、強化に努力している。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時、ケアプランの作成時の会話の中から聞き取ったり、家族アンケートを実施して家族の意見を聞く姿勢を持ちながら対応している。毎月のお便りの送付には、担当職員の便りも添えて連携をとりながら支援している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し年間を通して諸行事に積極的に参加し地域に溶け込んでいる。「ひなたぼっこ祭」には地域の方に来てもらい認知症を理解してもらう機会としている。「地域版便り」を発行して回覧したり、日々の買い物、散歩での付き合いを大切にしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	掲げられた5項目の「顔なじみの人たちとのかかわりを大事にすること」など地域との関わりを含んでいる。職員間で検討を積み重ね現行のまま継続することを確認した理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や日々のミーティングの中で、理念に沿った介護が出来ているか話し合い、確認しながら取り組んで次のケアプランに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し清掃活動や行事に積極的に参加し交流している。「ひなたぼっこ」便りの回覧など広報活動も積極的になされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の改善課題を全職員で検討し取り組んだ。自己評価は1ヶ月をかけ職員全員で話し合いを重ねながら作成した。改善課題もすぐ対応する意欲的な姿勢がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子、ホームの行事予定や取り組み、行政からの情報が報告され、課題や問題、相談、意見、要望など話し合い共有しサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「ひなたぼっこ便り」を持参するなど、ホーム側の積極的に働きかけにより、市の担当職員、ケアマネジャーとの連携も深まった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の暮らしぶりを写真と共に、担当職員が書いた手書きの手紙をそえて「美都ひなたぼっこ」便り、金銭出納を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話した時、家族会、家族アンケートなどを利用して意見や要望、苦情、相談など気軽に話せる機会を設けている。ケアプランや運営面に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はない。離職がないように管理者はやり甲斐のある職場作りに取り組んでいる。やむを得ない場合は利用者に影響がないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として段階に応じた教育システムがある。外部・内部研修に積極的に参加できるよう支援している。職員会議で研修報告をして共有し日々のケアに活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は月1回圏域のグループホーム長会議に参加している。職員も本年度から益田圏域の交流研修会が開催され参加し交流を図った。	○	職員の交流会が今後継続し大いに活かされることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学や自宅訪問したり、本人、家族と話し合い体験入居を試みながら、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り、洗濯物干し、たたみ、畑仕事など一緒作業しながらいろんなことを教えて貰ったりしている。労いや感謝の言葉に癒されたりし、お互いが支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いや希望を把握できるように努めている。困難な場合は、寄り添い行動やつぶやきの様子から感じたり、又職員間で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向、要望をもとに、管理者と担当職員で原案を作り、全職員で検討して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に一度モニタリングを行い、見直しをしている。状態に変化が生じた場合、家族と共に話し合い介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算が取られ対応がなされている。通院等家族の状況や要望、希望には柔軟に対応しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による連携は継続しており定期的な往診がおこなわれている。本人家族の希望する医療機関への受診も柔軟に支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針も作成されており、重度化や終末期のあり方について、本人や家族の意向を聞いたり介護計画を作成する時にも話し合われている。状況に応じて出来る限りの対応を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員会議の時に定期的にプライバシーの確保について確認している。日々の関わりの中でも職員お互いに声を掛け合いながら注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの1日のペースに合わせて起床、朝食、畑に出る人、居間で団欒する人、テレビを見る人など思い思い過ごされており、職員の暖かな見守りがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とメニューを作り、調理、盛り付け、配膳から片づけまで1人ひとりが持てる力に合わせて支援をしている。食事が楽しく出来るための重要な場面として捉えている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴出来るようになっており、夜間も可能である。利用者の希望、要望に沿って支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、裁縫、鞠づくり、書道、畑仕事など利用者の得意分野での力の発揮や好きな事が出来るような場面づくりを考え、工夫して支援している。ボール投げは好評である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの商店への買い物や美容室、散歩や外での日向ぼっこなど、戸外で過ごす時間を取るよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として日中は鍵はかけないが、利用者の状況により施錠する場合もあるが、この1年少なくなって改善され、このところ極力最低限に努めている。	○	さらによりよい対応を工夫されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による年2回の訓練、地域包括支援センターの指導のもと3ヶ月に1回、合同による地震、風水害に対する訓練も計画されている。備蓄に関しては1日程度確保しているが法人間で相互に助け合うことになっている。	○	法人間の距離もあり、最悪の場合を想定して独自の備蓄も検討していただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士から栄養バランスの指導も受けて食事内容の見直しを行った。利用者の状況に合わせて刻み、ミキサー食、とろみなど工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から居間は明るく、台所は広くきれいである。居間にはソファや椅子が配置され、畳のスペースもあり利用者は思い思いの時間をゆったりと過ごしていた。神棚も丁度いい高さであり担当の人が毎日お世話をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や小物が持ち込まれており、本人の得意な作品や家族の写真が飾りつけてあった。畳、ベットどちらでも利用できる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。